

特集

水害から命を守るために

大規模な大雨でまちが浸水したら、どのように行動したらよいでしょうか。西尾町内会の取り組みを参考に、「自分の命は自分で守る」ことを考えてみましょう。

■西尾町内会の取り組み

地域独自の水害特性をまとめた「水害手作りハザードマップ（本紙7月1日号を参照）」をもとに大雨行動訓練を開催しまし

た。

訓練には、小・中学生やお年寄り、要援護者などが参加。大雨が降ったことを想定し、危険箇所や、安全に通行できる避難経路を確認しながら、避難所までの移動訓練をしました。

訓練後の反省会では、地域ごとの水害の危険箇所、水害手作りハザードマップ（西尾町内会版）の改善点について、グループに分かれて意見交換をしまし

良い体験ができました

安藤五月さん（74歳／安城町）

一人暮らしをしています。大雨行動訓練では、近所の人に声を掛けていただいて安心しました。避難の仕方や避難経路の確認などは、訓練しておけば、いざという時にまごつくことが減ると思います。私は足が不自由なので、訓練は大変ですが、自分の身を



守るために、必要だと思っています。また、訓練を通じて、地域の人とのつながりも感じることもでき、良い体験でした。

■浸水前の避難が大原則

大雨が降っている時の避難は危険を伴います（右下の表）。気象情報などに耳を傾け、浸水が始まる前に避難しましょう。浸水が始まった時は無理に避難所へ行かず、建物の3階以上の高所へ避難した方が安全な場合もあります。

浸水している道などを歩いて避難する時は、次の①～⑥に十分注意しましょう。

- ①運動靴を履く 長靴や裸足での避難は危険です
- ②荷物を減らし、身軽な格好で 荷物を持ち出すときは、背中に背負い、手を自由にしましょう
- ③足元をしっかり確かめる 側溝やマンホールの蓋が外れていることがあります
- ④車での避難はやめよう 車で避難して動けなくなると、ほかの人の妨げになります。車の移動は浸水が始まる前まで、あとは歩いて避難しましょう
- ⑤確かな情報を自分で収集 災害時には、ピッチFM83・8MHzで地元の情報を流します。テレビ、ラジオ、市公式ウェブサイト、ツイッターなど、信頼できるところから、最新の情報を入手しましょう
- ⑥なるべく複数で行動 近所の人と声を掛け合いましょう

た。参加者から「昼間だけでなく、夜間に訓練してもいいのでは」など、さまざまな意見が出されました。

大雨行動訓練には、地域のハザードマップがあると効果的です。

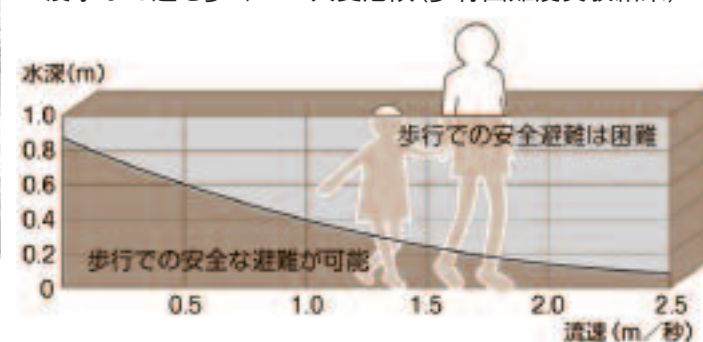
※町内会での手作りハザードマップの作成や訓練の実施には、県から補助を受けられる場合があります。詳しくは土木課まで問い合わせください。



反省会ではさまざまな意見が出されました

※知っていますか？
水深が20cmでも、水の速度が秒速2mでは、歩くのが困難になります（左表参照）。

浸水した道を歩くのは大変危険（歩行困難度実験結果）



水の中を歩くのは大変
提供：福岡大学

保存版

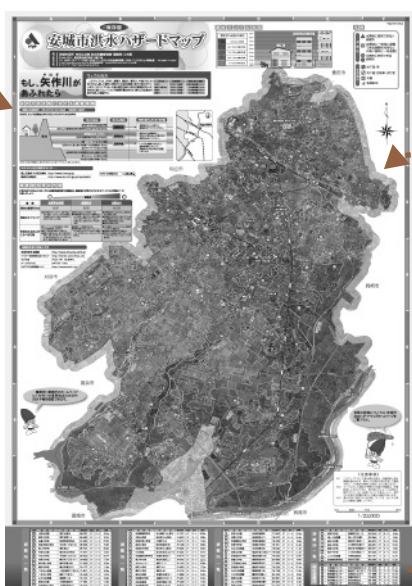
洪水ハザードマップ

来年3月末までにリニューアル版を配布します。保存して、いざという時に備えましょう。

●主な内容

- 矢作川などが氾濫した時に想定される浸水場所と深さ
 - 堤防の高さ
 - 避難所59カ所の標高（自宅の標高は、近くの避難所を参考にしてください）
 - 避難勧告などについて
- ※市公式ウェブサイトでも公開しています。

矢作川氾濫時の避難情報



市内の浸水危険地域を色分けで表示

避難時の心得

避難所一覧

